

自社保有技術の中からコア技術を見極め、継続的に強化していくことが事業成長や技術戦略において大変重要です。コア技術の定義・活用、コア技術を設定するための選定軸、具体的な設定プロセスについて詳しく解説します。

自社技術の棚卸/評価に基づくコア技術の設定

講師：ベクター・コンサルティング株式会社 代表取締役社長 浪江一公 氏

[日本工業大学大学院 技術経営研究科 (MOT) 教授]

北海道大学工学部卒業。米国コーネル大学経営学大学院修了(MBA)。大手電機メーカー、アーサー・D・リトル、フュージョンアンドイノベーションなどを経て現職。著書に『プロフィット・ピラミッド 超高収益を実現する 14 のシンプルな法則』(ダイヤモンド社)、訳書に『ステージゲート法 製造業のイノベーション・マネジメント』(英治出版)、『エマソン 妥協なき経営』(ダイヤモンド社)などがある。

■ 日時：2019年9月26日(木) 13:00~17:00

■ 会場：テックデザイン会議室(門前仲町駅) or リファレンス西新宿(新宿駅)等

■ 受講料：1名 34,980円(税込/テキスト付)

※詳細はHP・受講票をご確認ください

プログラム

1. はじめに

- (1) コア技術設定の難しさ:クレハ・富士フィルムの例
- (2) コア技術は未来志向で設定する
- (3) コア技術設定上の注意点

2. コア技術とは

- (1) コア技術の対象分野(5つの方向性)
- (2) 『既存技術領域』の強化
- (3) 新市場への『既存技術領域』の展開
- (4) 「既存技術領域」の『代替技術』
- (5) 既存市場での価値づくりのための『新技術領域』
- (6) 長期の事業ドメイン内での新市場での価値づくりのための『新技術領域』

3. コア技術の重要な7つの意味

- (1) 企業の屋台骨としてのコア技術
- (2) 「範囲の経済性」実現手段としてのコア技術
- (3) 事業戦略のドライバーとしてのコア技術
- (4) 『価値づくり』実現手段としてのコア技術
- (5) オープンイノベーションのプラットフォームとしてのコア技術
- (6) 全社で継続的強化・共有の対象としてのコア技術
- (7) トップマネジメントによる技術マネジメントのツールとしてのコア技術

4. コア技術設定の企業事例

- (1) コア技術設定の企業事例: 3M/クレハ/富士フィルム
- (2) 基盤技術とは(富士フィルムの例)
- (3) コア技術のその他の定義

5. コア技術の選定軸

- (1) コア技術の選定軸
- (2) コア技術の選定軸の背景: 収益実現の3要素
- (3) 「顧客提供価値の大きさ」について
- (4) 「適用範囲の広さ」について
- (5) 「自社の独自性追求」軸の設定の注意点

6. コア技術設定の全体プロセスと注意点

- (1) コア技術設定の全体プロセス
- (2) 注意点
 - その1: 自社保有技術を広く俯瞰する
 - その2: コア技術は未来志向で設定する
 - その3: 長期的な全社の継続的成長の視点を持つ

7. ステップ1: 技術棚卸の大分類の設定

- (1) 技術の棚卸のための大分類の設定の目的
- (2) 技術の棚卸の大分類の設定事例: 電子部品メーカーA・B社/エレクトロニクスメーカーC社例
- (3) 「技術を『機能』で表現する」について

8. ステップ2: 技術棚卸素案の設定

- (1) 技術の棚卸設定のワークシート
- (2) ステップ2はあくまで叩き台

9. ステップ3: 各部門でのマクロ環境分析と技術棚卸素案の各部門での追加・修正と評価

- (1) ステップ3を構成する3つのタスク
- (2) タスク1: マクロ環境分析
- (3) タスク2: 棚卸技術の追加・修正: M(市場)→P(製品)→T(技術)で考える

(4) 棚卸技術の評価

- 評価項目A: 顧客提供価値の大きさ
 - ・ 顧客価値拡大の網羅的視点: VAGESモデル
- 評価項目B: 適用範囲の広さ
- 評価項目C: 公式の技術戦略上の位置付
- 評価項目D: 技術水準
- 評価項目E: 技術成熟度

10. ステップ4: 各部門での追加・評価した技術の統合と全社視点でのマクロ環境分析の補強

- (1) 全社の評価が一覧できる表の作成
- (2) 各部門が行ったマクロ環境分析の統合と全社視点での補強

11. ステップ5: ステップ4に基づくコア技術の設定

- (1) コア技術設定の2つのタスク
- (2) タスク1: グループ化によるコア技術候補の設定
- (3) タスク2: コア技術候補の評価・選択
- (4) ステップ5の実施体制

12. 最後に

<習得知識>

1. 自社技術の棚卸法

2. 自社コア技術設定法

<講義概要>

コア技術設定は自社の技術戦略の要となる、極めて重要な戦略的な意思決定です。しかし、大企業を含めて多くの企業において、個別製品での重要技術の設定にとどまり、長期に渡り自社として新規事業を含め事業の成長の根幹とし今後とも継続的な強化が必要とされるような技術、すなわちコア技術は明確に設定されていません。このような企業においては、1つ1つの技術開発に大きな不確実性を抱え、加えてますます大きな投資が必要となる環境下において、技術戦略が不在もしくは不備と言われてもしかたがありません。本講座においては、コア技術を明確に定義し、その定義に基づきコア技術を設定する方法論、すなわち、どのような評価基準でコア技術を設定するのか、そしてどのようなプロセスでコア技術の設定を行うかを学んでいただきます。前者については、コア技術を長期的かつ継続的に自社の収益拡大に直接的に寄与する視点から、複数のコア技術の選定軸を提示し、コア技術を定義します。後者においては、自社の現状の保有技術の棚卸を最初に行います。技術の棚卸とは、自社が全社として保有する技術はどのようなものなのか、それは自社の他社との相対的な技術水準を含め、どのような特徴を持つのかにより、自社の保有技術を俯瞰的に捉えることを目的として進めるものです。また最後には、どうコア技術を継続的に強化していくのかについても、議論をします。

＜お申込み要項＞



申込用紙 講習会申込:『2019/9/26 自社技術の棚卸/評価に基づくコア技術の設定 』

下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください（※は必須です）

FAX:03-6261-7924

会社名※			
所在地※ <small>(受講票等の送付先)</small>	〒		
参加者 1			
氏名※		TEL※	
		FAX	
所属※		役職	
Email	<small>(リマインドメールなどお送りしますので、なるべくご記入ください)</small>		
会員登録	<input type="checkbox"/> 登録する	<input type="checkbox"/> 登録しない	<small>(登録料・会費は掛かりません。お得な割引や会員イベント情報等を配信します)</small>
参加者 2			
氏名※		TEL※	
		FAX	
所属※		役職	
Email	<small>(リマインドメールなどお送りしますので、なるべくご記入ください)</small>		
会員登録	<input type="checkbox"/> 登録する	<input type="checkbox"/> 登録しない	<small>(登録料・会費は掛かりません。お得な割引や会員イベント情報等を配信します)</small>
備考			

お申込について

① 以下のいずれかの方法でお申込みください

A	FAX 03-6261-7924	本用紙の申込欄に必要事項をご記入の上、送信ください
B	E-mail entry@tech-d.jp	【社名】、【所属部署名】、【受講者氏名】、【所在地】、【電話番号】、【FAX 番号】、【E-mail アドレス】をご記入の上、送信ください
C	HP https://www.tech-d.jp/	【申込フォーム】をクリックし、必要事項をご記入ください

② お申込受付後、受付完了のご連絡（メールまたはお電話）を致します

③ 受講票・請求書をお送り致します

＜注意＞

① お申込後 1 週間たっても受付完了の連絡がなかった場合は、お手数ですが、弊社までご連絡ください

② 開催日の 7 日前以内のキャンセルは、お受け致しかねます。必要に応じ代理の方のご出席をお願い致します

お支払について

＜期日＞

① 受講料は、講習会開催日の**翌月末日**までにお支払いください

※ 経理の都合上、期日までに間に合わない場合は、対応致しますのでご一報ください

＜方法＞

① 銀行振込にて、下記の口座へお振込みください。なお、振込手数料は御社にてご負担願います

※ 講習会当日に現金でのお支払も承りますが、領収書等の準備がありますので、事前のご連絡をお願い致します

振込先銀行	支店	口座番号	名義
三井住友銀行	多摩センター支店(909)	(普) 0973522	株式会社テックデザイン

主催 申込・問合せ先	名称	株式会社テックデザイン(http://www.tech-d.jp/)		
	住所	〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-9-14 九段南センタービル 5 階		
	電話	03-6261-7920	FAX	03-6261-7924
	E-mail	entry@tech-d.jp (申込) / info@tech-d.jp (問合せ)		